

ゴルフ会員権底入れか

「脱デフレ」で買い注文急増

〈為替の円安や政府のデフレ脱却に向けた施策の効果などで株価の上昇傾向が目立つ。株と同様に投資資産の性格があり、株価との連動性が指摘されているゴルフ会員

権価格にも上昇の兆しが出てきた。ゴルフ会員権はこれまで安値が続いたこともあり、相場の底上げが進む可能性も指摘されている。

■買い注文が例年の倍以上

ゴルフ会員権仲介の最大手、住地ゴルフ（東京・中央）の小林隆太郎社長は2013年の初出勤の時、パソコンを起動して驚いた。例年の同時期に比べて倍以上の230件前後の買い注文が入っていたからだ。売り注文の数に比べても、買い注文の数は約4倍。昨年後半から買い注文は増え、今年に入ってから買いが売りを上回るようになったという。

買い注文の増加にあわせ、会員権価格は上昇を始めた。同社によると、最も取扱高の多い関東圏のゴルフ会員権の平均価格は1月第2週時点で118万円と、政権交代前の12月第2週時点に比べ3.5%上昇した。第1週時点の価格は同社の1979年の統計開始以来の最安値である114万円だった。

ゴルフ会員権の相場は株価に連動すると言われている。政権交代後の株高に象徴されるように、景気の先行きに明るさが出てきたことが会員権の買い注文を増やしたもようだ。

仲介大手の桜ゴルフ（同）のま

とめた調査でも、関東圏の会員権の平均価格は現在、91.4万円で政権交代前に比べ1.2%高い。

■名門コース中心に値上がり

値上がりしているのは、いわゆる名門コースが中心だ。千葉カントリークラブ（千葉県野田市）の相場は昨年末は295万円だった。現在は405万円。相模原ゴルフクラブ（相模原市）は673万円から790万円に値上がりしている。相場の上昇を見て、「昨年末に売り注文を出していた人が、売りの時期を遅らせようとする動きも強まっている」（住地ゴルフ）。

現在、買い注文を入れているのは個人が中心だが、法人の需要も旺盛だ。政権交代前後、企業が割安感の出ているコースをまとめて購入する動きが広がっているようだ。ある大手企業が約20コースをまとめて取得した例もあったという。

■名義変更料の減額も相場を押し上げ

会員権の名義変更料を年明けから減額するゴルフ場が多かったことも相場上昇に影響を与えた。会員になるための支出である名義変更料が下がると買い注文が増える。住地ゴルフによると、今年から名義変更料を減額する関東圏のゴルフ場はスカイウェイカントリー

クラブ（千葉県成田市）やアバイディングクラブゴルフソサエティ（千葉県長南町）など10コースあり、例年に比べても高水準だった。こうした名義変更料減額の動きは2年ほど前から広がっており、会員を獲得するためのゴルフ場の努力と言える。

上昇し始めたのは関東圏のゴルフ場だけではない。関西圏では現在、平均価格は102万円。昨年12月第2週に比べ1万円高い。中部圏は112万円。前週に比べ1万円上昇した。現在の関東圏の相場上昇が全国に波及すれば、ゴルフ会員権は上昇基調が続く可能性もありそうだ。

「日経新聞電子版」より